東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2011年1月28日

預言者ムハンマドの模範的ドゥアー

親愛なるムスリムの皆様。今日のフトバは、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の生活におけるドゥアーの占める場所、そのお方のなされたドゥアーの例について行なわれます。ご存知のように、ドゥアーはしもべから創造主への懇願であり、人間的な一つのニーズであり、人がアッラーを信じていることを示す重要なしるしの一つです。

ドゥアーについては、預言者ムハンマドのハディースに非常に豊かな例と解説があります。彼は「ドゥアーはイバーダの真髄である」といわれました。あらゆる機会に自らドゥアーをされ、親友達にもご自身のためドゥアーすることを求められました。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドは、あらゆる機会にアッラーにドゥアーしていました。死者のためにドゥアーされ、生きている人々にドゥアーされていました。日中の明るさの中で、夜の闇の中で、雨が降った時、日食や月食が起こった時、飢饉が起こった時、戦っている時、平和となった時、旅をしている時などにドゥアーをされていました。要するに預言者ムハンマドは決してアッラーを忘れず、絶えずアッラーを思い念じていたのです。

新しい服を着た時には「アッラーよ、あなたに感謝します。これを私に着させてくださいました。これが善となること、そしてこれが作られた目的のうち最も尊いものとなることをあなたに求めます。」とドゥアーされていました。我執の企みと欺瞞から逃れるためにもアッラーに手を掲げ、「目を開けて閉じるまでの間ですらも、私を私の我執と共に取り残さないで下さい、アッラーよ。」と懇願していました。

寝床に横になった時には、完全な服従の心でアッラーに乞い願われ、「アッラーよ、私の命をあなたに委ねました。顔をあなたに向け、私の仕事をあなたにお任せしました。背をあなたにもたれかけさせました。」とおっしゃられました。

預言者ムハンマドは朝眼が覚めた時には、一種の死である眠りから目覚めさせたアッラーに感謝し、「私達を死なせた後で復活させられたアッラーに感謝を捧げます。復活し、戻る先はあなたのもとです。」と言われました。

またウンマに、罪を犯した後でどのように悔悟すべきかを教える際、次の言葉をつぶやかれました。「アッラーよ、私は確かに、自我を虐げました。罪を許されるのはただあなたです。だからあなたの位階における恩赦によって、私をお許しください。私を憐れんでください。多く許し、憐れみをかけられるお方はただあなたのみです。」

預言者ムハンマドは病人のためにもドゥアーをされ、彼らの回復を願われました。

要するに、親愛なる皆様、預言者ムハンマドは一方でやるべきことを不足なく行なわれ預言者としての任務を果たされ、また一方ではこのドゥアーの内容からわかるように、アッラーの前でその無力さと助けを必要としていることを訴えられ、ある意味で「主よ、私ができることは全てやりました。私ができないことのため、あなたに手を掲げているのです。」といい、アッラーにドゥアーと懇願をなされたのです。

最後の言葉は、偉大なるアッラーの私達への近しさと慈悲を示すクルアーンの次の言葉としましょう。預言者ムハンマドに対しアッラーは次のように仰せられました。

「われのしもべたちが、われに就いてあなたに問う時、（言え）われは本当に（しもべたちの）近くにいる。かれがわれに祈る時はその嘆願の祈りに答える。それでわれ（の呼びかけ）に答えさせ、われを信仰させなさい、恐らくかれらは正しく導かれるであろう。」（雌牛章第186節）